金部三冊
見料三分
百十二

へ13
1367
1

但馬
仲屋左衛門
湯嶋

13
1367
1-3

一廻りかし代

但し一日一夜ごとに見料四匁五厘宛作
但外琴三味線かし物取扱ふ事
藥種抑柳骨抑其他土產物仕入
用品注文ニ応ジ作

但外 湯嶋中屋甚兵衛

夜聖序

齊部若神事記ハ。然ルニ古い屋代有リテ。
ヲヲヤケ其ノ古法切ニ為ル。其神系い学
乃ことくふ古人更。雲の如ク高奇なる紀。
太玉尊の裔孫。素盞伊紀古老所ハ。ものよ梁
神代事業をこ事ハ。ヲヲキ強ひて。ヲヲ紀又我
おるひちはるるふと。あ毎古老学。我理方。數
年十と歳を。そのつこと稱作ら繼しらん乃さ事
身乃物語ふ法。法ら神かこ法。ヲヲ通古紀

花をも乃性。其名のあゝ紙を不うるこそ。おろそかなれ。ちうひ。れて。其屋乃齊事をもあそこ。いうあるべきなるやゝ。そ。れ。ものあるあるをまゝ。改まるゝ。

世こゝろ。ゝ。ゝ。ゝ

先人おもふこゝろ。いかゝ体をのこゝろをつくしてこゝろ。
かゝ御ふ乗紀皮書面あるゝ稿ゝ。ゝをゝあるこゝろ
きふゝゝこゝゝ。ゝゝとゝこゝゝすてあ其。書。業
若か物ゝを先ゝこゝゝ。屋つきゝふものゝ押
あゝゝるゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ乗ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
物ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ水ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

夜聖 巻之一

斎部伊紀麻著

いにしへの人は花をもむ月にいとまをもとめ言ひ
ぬ。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゝ。ゆゑ化物の法ゝ。さまもゝ。ちゝ孫ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。

ぞ波流ゝゝやゝゝゝ堂のゝゝゝよたゝゝゝ居るゝり。
やゝゝゝゝゝゝゝ壁の金閣にまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝれいうゝひゝゝ。今唱くゝゐゐ二ゐの文ゑん新とゝゝゝ。
ゐゐ切ゝゐゝゝく。さゐゐてよゝゝれゝ山社中法。亦他の妙ゐるよりゝ
はゝゝく。雪跡の光ゝとあゝゝ移ゝゝゝく。ゝと答ゝ緣と結ひ
ゐゐひゝ。得燈河著梨元海。山よのわゝく。仙と墓ゝゝゝ
一ゝゝ移ゐゝゐひよ亀霧追ゐ押よあゝゐゝ古種ゝゝ。
絲ゐゝの扨。鴨の兒ゝゝゐれを。ぼゝゝゝゝゐん。鶏のゐ
のゐゝゝを切ゝ捨ゐむや。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
てゝゝゝゐゝ。ゝゝゝく捨ゐゝのゐゝ。ゝゐゐゐゐゐ。ゝゐ。
ゝゝよゐひゝ。色ゐと。ゝゐゐゐゐゐゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝ。
ゝゝゝひゝゐゐゝと。ゝゝ。一向悩ゝゝゝゐゝひゐゝた

ゝゝ羽とあゝゝ。毛とゝゝく染ゐゐゝゝゝ。蓑流注身の大恩
の意化。家ゐゝゝ家をたのゝゝく。常よ山蔭よ枝注ゝ。親
令とゐゝゝゝゝ言ゝらゝけゐ。常よ笑ゝゐゐゝゝく移ゐゝ。何
ゝの変ゝゝゝ。ゐを淋ゝゐひゝの山あゝ。ゐのゝゝゝゐゐゐよ。
ひゝれをゐゐゝ。ゐゝ変紅糸の移とゝゝゝ。ゝゝを名紙中
ゐゐ。家を張。そゝを結寝のんゐゝ。ゝゝひゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝん。ゝゝゝゝゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゐ智籠やゝをゝゐ。あゐゝのゝゝふゝゝゐ。ゝゝの一問と偽ゐ。
精を扨いゝゐふゝゝゝゝゝゐんゝゝく。業嫁よゐゐゐ扨ゝゐ
ゝひ。業粧ゝゝゐひゝゝゝと。粧ゝゝ切ゝゝんゐゝゝゝ注ゐ

よいてふ夏の事物(ノリモノ)なり。ひくとゝ物(モノ)ゝ紅九度あり。湯里
五ゝを同ゝ夏ゝ行ゝ色ゝ。海のそこゝにあり。山のゝ色ゝせん
うゝ行ゝも志ゝ行ゝ。さうゝとゝ行ゝ。ふ俗ふ。先稲荷
大明神の行ゝ色ゝたゝふ。苔のゝ色ゝ。ぱゝとふゝ。ゝ
のゝ先ハ。ゝ。ゝ。苔ゝ。いゝ行ゝ何ゝ。ゝ。ゝ俗ゝ
乃僧(アヤマリ)あゝ。行ゝ。ゝ。ゝ。

巻雲の末より。雑波大沈震ふ。こは治ちたりとて。世の中も
あらたまりぬ。大和山背の国。宮城。樓閣を焼く。焼
うせたり。文武天皇崩ぜ。元明天皇より改元。国方の国を
たまはりよりて。勅使あり。世世一の唱出る。
あり。後五年七年十一月乙丑。大改元年。一品舎人親王薨
ぜ。後二位給爵を賜ふ。源氏山より。
出る物あり。政大臣あり。
ちまちあつまりて。飯生山の南。天王塚といふ所に。
出あり。舎人親王の位領。今の後の森の社。崇道盛敬天皇
の位なり。舎人親王の位なるあり。皆来の世のあや

ゆりあり。桓武天皇。位をひきうけ。紀崇敬天皇の社
と。高野川の上より遷しまつる。後の森とまつる。別雷命。旗薨神あり。
三番。八幡宮神社。二ヶ社あり。延喜式よりあり。紀伊郡深草里。
後に合せ。高野二所の位。異所。良親王。伊勢親王。井上内親王
あり。舎人親王。あやゆるかい。良親王。崇道盛敬天皇
高野。似きいあるへし。五月五日。長岡延治の兵乱。
神功皇后。二韓を征しまつる。幸地。旗鉾の儀。
こふ武。張ると。
い流鏑とて。端午。
あらう神あるあるとあること。後の森とまつること。

桐の宮清水。稲荷の前より接家の間へ日々参詣あり。しかるに京田
少卿の妻は。夜の参詣を怠り。香椎の流
儒の教を。大宰府の呼せ。其の日乃時と。後世に
夜の参詣を。いとあしく。みしかの稲荷のあらはれ。みしかの
よりはらをくれりき。宇佐の宮のいちろ記。告げ給へり。
夜叉と合せ。本地の光明方ふかくやくるの八。落涙天空。ちろ
の命とあらしあらしと記。宇佐の御神法と
ちかしかしあるふ。飯生山よりこの社の本地と祝し。三密倫理の
灌頂と。記の。三社の本地を利生あらくしい。
名流法身のあきらかなる。大悲門よりせくせよ。

光の。歓喜。辯才。此若石のこの。新に。この社の本地と。又。雌夜
又神。雄夜又神。飯生使者の神あらく。本地八
文殊。座主。慈氏。やしろ。稲荷山ふを。飯生の社と
あるふ

天長御記に。東寺に有守護天等。稲荷明神。使者也。名大
菩提心使者神。或抄に。稲荷明神。使者。大慈精進者云々
拾要集云。守覚法親王真製。東寺夜叉神之支。
大師御入定之後。於西御堂。授揮尾僧正。終條々有之。摩多羅
神其一也
大師云。此寺有奇神。名。夜叉神。摩多羅神是也。持者告吉凶

神也

其形三面六臂。彼三面者。二大也。中面者金色。左面白色。右面赤色。中聖天。左者吒吉尼天。右者辯才天也

新猿樂記云。東寺夜叉ニ祀飯飯百羅子。東寺中門左右夜叉神也

二社のあやゝ神。海人の子よりひ。新のこゝ[illegible]へゝ

伊島新。芸出雲の家よりこゝい。稲荷ひの新ゝ。海

敵新。出雲。東隠寺よりこゝ。新のあやゝ記。こゝをみて。

神よいこひの。飯生山を稲荷の二字よりゆゝを。伊島の新出

いこ神よりの新こゝ。神の海よいこ新こゝ。神の書物を

を。たゝこゝ[illegible]。神を似ゝ。人の中ゝを。

こゝ。ゝ。ゝ。

きはあるべしゝ。くるぶし岩屋の尾よりひろまりて。大津をふと
のりんと出るふ人。末の世の業僧より法華経。ひろまりあるい
へるとも。さ後は字地法角の社。強く尋ふ地とも。音
義慈墨のあるべく。ひろまりふ法滝頂のあらも。此さ
あるふ法則の上と執行とをもうと。ふまさうに神蔵唯一
の傳はきとふ。逢ひやむ。社伝をやくいへふ
くあるそふあるあきく。神は垂はたれはひろひ女と。
いる後ふをはるふをも。後をあるべく。行ふきるの
をしるべと。法世と出しるべく。神さひのをめてそれ。
御雲殿の法なるのふふ字なのこと女ふ社ことて

稲荷の社伝とは毎ふ法ゝ出ける。ものの京
後。社伝といきゝ旨出く。上ようふ。朱雀流の
御宮ふ。きるとふあるふ。夜毎ふ鐘きるふ法と
ふの百強るるものふ。彼流ひ房。出ひやふる。ふ
出るふ。いたくのをもとも。盗人をあるとたて
出ふと神をにるふ。稲荷の社伝りのふ。法
法文法宮と法ふも。ふ云の一流と出るり。四和の法て
角の社。ふ云流ふ。ふるべく法りゝ焼ふるて法堂
憲法ふるあきゝ。六強ものの法ふあるべく。も。塔離となる
ふ社伝とあふ法ふゝ友とてそけ。ふ稲ふ建ふみる。

施主の大臣と聖一国師を浦々にひく。ゆゑに、
と。法示懺法堂とあり。稲荷山の本社をふひとつを。信濃
彼より渡く。ふてしかりき。一すの寺本をかあへハこの山、
地とし。の面ひしかや。新多のもく中より。ゆゑより
みく弥陀ろハ中後あるそり。浅白河流の南宇。正相公法
堂。社と信仰ろく。如うつしのとれ。神祇社信の勝り色
にしんく。五條大納言宗綱の雲法堂形。俗の社勅信
し。神垣と養し。ゆくしたくゆ。ゆくの告とも
ありく。法よりこの如く。山雲内大臣殿のやせ生てる
兵衛山科より。命婦の告とりてり。ハ寺堂この時とり！

法堂。本名義仲将軍より任し。法垣のり武者集り。振ハ
しくし法。神垣より無とこ。神祇とうひ。々ゆらりし。紀る
人のもとり。往あハ神風ようひ。弥ひく。鎌倉の持威。
内ゆく。法ゆし。大夫将頼知。作ふく。垣あくあ造
らんく。ふくあひふ。猪背堂久とふすの。正家の藤
人とかし。陸堂の如とひ。社の色とよ。ひあひ
々ふ。と正耳しくたうり。法ふく。沙法ありし。
しと。聖宥法。鎌倉よくり。弥指の切より修法し。ふ決聖。
法ろ聖。富士聖より。稲荷の祖と。ら後々ふ。交ろ多く
の里くよ。ゆくふ。名弁と。ふく。ふ。ゆ法ろ。浅弘敬天皇

神宮ふハ海くに伝作由〳〵くに神酒あ〳〵こゝ作る。卯の日の神楽。なるへし。世世者ゝ家家ようれ人。旅の物由〳〵と〳〵の氏子ひろまり。祭の儀式とゝや由〳〵あきハ。京畿のにくせ。うゝ〳〵出〳〵。むま〳〵ゝ〳〵あ〳〵ちやゝとも〳〵いあ〳〵〳〵ハ。加茂の祭生。新羅の花鎮あ〳〵そ。ゝ〳〵ゝう物をひ〳〵。今ハ誰知ふ人をあ〳〵。片田舎の人ハ。祇園をとの〳〵。旅のあ〳〵ゝとあ〳〵ふ。ゝ〳〵ゝうや九月のあふくあるゝ所〳〵も。皆〳〵鉾の役と物〳〵〳〵。町のいゝをとけきまへ。めたくひの〳〵ゝ。加〳〵いゝあ〳〵〳〵祇園ハ式のかゝ社ふ〳〵。歳神院とゝ茶師〳〵そ。ゝ〳〵ふ〳〵ハ〳〵ゝくゝうやさきとゝひゝれ。稲荷ハ式の中。第八

ゝ位〳〵ゝ。ゝそれさへ。ゝの式。ゝ〳〵ゝ。ゝ。ゝ。

息のうるはしきくしゝゆとりあるさまを人の初花
を。つゝまるとしたけ。何まの仕ちかく古れ柔の面とぶ〳〵める
とゆとふる。細川頼之の家譜。紙筆に感神院とゝく。比叡山
西塔の一流。こゝ高の教よいまち。山門の衆徒憤りあふゝれい。
山王社神輿を。防ふりまるいあゝさ式。中やゆみをゆる
させるゝ。こゝ勢とうゝやゝ。紙筆をもまとゝひ。神輿こゝ
〳〵出う早出。衣冠甲冑とゝゝ。白條川原橋乃
左右。稼ものとゝひ流と法〳〵〳〵。法螺とゆゝ。
さゝふ旗あまい。方とめゝ〳〵ゝ。ゝとゝ〳〵ゝ。
とうやゆゝ。たゝゝものゆを。乃とゝけくさゝう稲い。

幕りゝく。衣柄と本乃杖ゝ宮あゝ。破ゝをいゝくゝと。ゝを屋
さゝゝう。同鼻ゆゝふ〳〵類切〳〵。さ後と。ゆゝ〳〵。ゝう世ふ物
そしなど。乙ゝ茂ゝゝ〳〵。氏ゝゝものゝ法のゝゝ。稲荷のまゝりも。
紙筆ゝゝ法ゝゝ。見ゝゝひ。ゝゝゝ法ゝゝ。教多のゝゝ
いひゝゝ法ゝゝ。世のゝゝゝゝゝゝ。教多のゝゝ
みゝゝ。ゝけゝゝゝ。法ゝゝ。放逸のゝゝゝゝ。
ゝ法ゝゝゝゝ。日ひゝひ。行幸あり。田乃
絵とゆゝひ。あゝいる遊る漁ゝゝものゝゝゝゝ。
るゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

ちこうてうぶくふ祇園あんをうるひあん。祇のこふいあうと。
人の世ふあうさこれうちうぶ世うあうう〳〵うぶとあうう
世かくをぶこそ祇うあううせのおやまれう羅をゆう〳〵あんや。
さいいん〳〵ぶくふをを注世〳〵ろへ九をのうちを帝の后乃こ
多〳〵ぶ庵〳〵注〳〵高〳〵の泊〳〵こぶ〳〵ろよ門〳〵のうあ〳〵をあ〳〵。
坊門〳〵ぶ条の〳〵ろ〳〵いつ〳〵〳〵。條町を結〳〵ひあ。まり
あう祇〳〵あう〳〵ひ〳〵ぶ〳〵ぶ祇くをを注〳〵ぶ〳〵ぶを。
祇武天皇〳〵ろあの〳〵〳〵へぶ〳〵ろ注〳〵ぶ〳〵ひつ〳〵をたあうあう〳〵ろ
あんあをぶう〳〵あ〳〵のあんひ〳〵をを〳〵ぶ〳〵くいたの〳〵あを〳〵と
よ。湯里居士熟〳〵聞る。菓〳〵の物〳〵ろあ〳〵祇へゆ〳〵を〳〵の

世をとひ世〳〵をあ〳〵んぶ〳〵〳〵ちせ世をを注たま〳〵へ〳〵り〳〵〳〵のそめへ。
化あう身よへ何をうたの〳〵を〳〵せんぶ祇へ〳〵ぶ〳〵ぶと〳〵ふ〳〵〳〵。祇
あう身をあ〳〵と。ぶをやうふ〳〵〳〵ちう〳〵をう〳〵ぶ〳〵ぶの
あうふをぶへ〳〵〳〵ろのゆを世〳〵ろあの〳〵〳〵ろ世かくれ。伝るく
職を祇よ注世。成ひ〳〵の業〳〵ろ海ふうあ。世の改かれへ。
あをちを〳〵ゆ注〳〵ろかへ〳〵あやふ〳〵の中よへ世りの〳〵をあの
いつや先ぶ〳〵ちあ〳〵〳〵〳〵祇〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵ふ〳〵あ〳〵祇貢
もをああ〳〵あの〳〵注〳〵ぶ〳〵ろ〳〵世をあれへ。を家のうちのを。浪
あ〳〵〳〵へ。注く〳〵〳〵〳〵注〳〵ぶをへ〳〵トのあ〳〵れ〳〵へ〳〵〳〵〳〵あ〳〵〳〵。
銀とゆづらを。ぶを注〳〵なふ人の家あり〳〵を。押出して

の正月てゝ家かゝゝゝ
ゝゝと申ゝゝ。祝ゝ
へゝ。師ゝと廿日ゝゝ
ゝゝゝゝ。錦ゝゝけゝ
香と申ゝゝゝ。申ゝゝ
しゝのゝゝゝゝ。ゝゝ
のゝゝゝゝゝゝ。祝祝
ゝゝゝゝ。毒本ゝ
むとゝゝ。申のゝ家略の
ぬゝ夕陽ゝ。ゝ海ゝ紀

あゝと。番打ゝゝゝ去い
ゝゝゝゝと加ゝゝと。
けけゝゝ。ゝゝゝゝ
ゝゝ。ゝを開ゝゝと。
海ゝ。夷ゝゝ海ゝ祝ゝ
鴻須彼の面。発生門ゝ
ゝゝ。今ゝゝゝゝゝ
と海ゝゝゝ。ゝ動ゝゝ
らんゝゝゝ打ゝゝゝ
ゝゝゝだゝゝ面海ゝ。

あつ孫白拓ひとあつ。ぞあるとうかうとふふれちく。
法ひちく〜あく。位あるよ砂く。位あく。餓却とれりいく。
却をうくと。朔夕内外のうまひ何ときりはあくも。好む
うく却りく。ふうけきいうやしみぞくくしむとふくむ方もみ。
そ穢ををうくと。ぞくくあく。たうぞのく却そうくれ
うくぞうりくく開孫。同くはふうあく。旬ふ々ふいあり
却く。ふあそふくくを。慢(スジカ)よ足とうくくをあく。おく
ふくそそよあくぬみや。ぞきをあやくれ。形のくひあう
あく。ぞくけそ正くかくと。くくうくく孫うくぬよあくと。
りくうあ食(ニヅシ)くく。あふれ出うう。完先ふあふ果(クハホウ)孫よ

くくぞのくんとあや海くくへうくと。さいひあく。家外ひく
法のみよ海くうあく。却やのくあくのいくう。妻をくふ
外よいけうあれ孫うひを却くりあんぞちけうくえあく。のひう
ふかくと却りくくいくへくぞ却をうくの孫くくくをぞくうへ
なくくうくくくくんぞうふ々後く。文中子のくくうふいくうぞをれと。
化蝶義の義よへ古孫ふくへ何のうくみをあくへくとくく。
けくくつむ糸ふれへ浮古つ。ふうむ海をいくう。ふの義よくく
ら後へ被(キシ)義を陸(イガ)まくと。たくうふんとやうく。ぞうくあくとあそ
ひくぞんぞれけ。京二條の川竜よのくひあくくくの文婦ふけへ
めくたくうすのふく。ぞうく孫ひよへあくく。ふ学(ハラミ)秋彦う。

うむ〳〵れ。又母そなる物ふくれ。はまろくゆとそなるゆくぬあく
むゆ甲斐ゆ〳〵。粥夜さそよゆあきへ。袴ゆこゆ活そゆくやきと。
母を乳ゆ〳〵〳〵。雪ゆの人よゆくへ。ゆとゆ安へあゆれとゆて。
乳房とゆゆくれ〳〵ことと。二月の程ゆ〳〵れ〳〵。袋よゆと。
ゆてゆのうこいの中よ。ゆ〳〵〳〵ゆまれゆきへ。命ゆことゆけすゆえ
ゆてゆとゆ〳〵ゆゆ。袴きゆと。抱ゆとゆ〳〵と。孤中ゆゆうゆまん〳〵と。
ゆ日傷よ。夜袴〳〵ゆ傷ゆ〳〵。門上ゆゆゆ〳〵ゆのゆゆ〳〵ゆあけ
て見きへ。二月ゆゆ方の相ゆ慣ゆ。ひゆゆへ袴よ活〳〵こと
ゆゆゆと。今活よひ〳〵〳〵よ。七月ゆゆゆ生産〳〵。安のゆゆゆ
と。香ゆゆゆ〳〵ゆ袴よ。ゆゆ活ゆゆと袴ゆ活ゆゆて活〳〵み。

今袴ゆゆゆゆゆゆゆんでゆ接ゆゆを抱ゆ〳〵。ひ〳〵〳〵活ゆ。
袴と蓋〳〵。夜生男ゆ袴ゆ袴ゆ〳〵。網ゆゆゆ〳〵ゆ夫婦。
年よゆゆ〳〵ゆゆゆゆ。袴を活ゆゆゆゆ世の中。ゆゆ〳〵人よ生れ
てゆと。ゆ〳〵のゆゆゆゆゆゆゆふみゆ〳〵袴よゆゆ〳〵ゆゆゆゆゆゆゆ
ゆは果袴を命と。ゆゆゆ活ゆゆゆゆと。十月よゆゆ〳〵〳〵ゆゆゆ。
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ活〳〵。命ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆれ
ゆゆゆゆゆゆゆゆは男ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆよ二乳
の袴ひとゆゆ袴〳〵ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
三月ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゝゝとゝの嬰孩(ヤイシ)ゝゝ形とゝこゝろ子ゝゝゝゝ胎孩(ヤイシ)の子ハ流ゝゝ捨。
ゝゝこゝの子と第よ地ゝゝあゝ清ゝゝゝゝん山の上ゝゝゝ網めゝん。第弐
町ゝゝゝゝ

うふのあしとそろ。そ中よ耶弱の枝をいてゝ。ぷやとろく賦つ
ま人。家揮ゐく。落ひくしひこのとゆりよ湯ゆんと。ぷをいひり
くゆ人。ぷ人のまくふうちゆゝろし

○梅の花ゝうゝ紅夜。懲月のみゝをぷゝく。ぷ人ゝ紅ゝくゝ。
よ。書ゝと。ぷ人ぷ。ぷゝ。ぷゝ。ぷゝ

ことを作ること百年の中よりぞゆくのうらとぞ人ゝ多くうる國のうち
あんやぞ月よりまさりひ遠くことをぞあり〳〵ものを中を化よりあり
あるひなるふぜ〳〵ての一夜とぞあることあ言の葉いたりあり
て世の続くことあらめるそう〳〵ことをあつて〳〵人へ兵いはくらうち
よそのうつゝやそをやまくくるか第本のおりやあるやあいを
きてひうらぞ国〳〵ゆをたう〳〵ぞ山櫂の里ことふいあるさう
ぬゆをひあるゝぞ国よ移ゝんあるゝぞうへのたれうぞ下はくて国て。
ことうゝのこゝゝ〳〵ぞことあるぞ此のさあるゝぞをはくゝよけそを
れてふゆてあるうぞこへ。婆婆〳〵れへのをを知せへめて
垢ゝ〳〵ぞをの後をゝれさあるへゝ。侍女をゝく。甘泉のれうう

うあるうあ〳〵はをゆゝ。若狭〳〵ものめさ持ゝせぞをゝとあう
ゝよ。あ和うゝあ和ゝを色はやはゝゝくぞはあ新をひうう
をひ。湯あうゝあうあ。後ふあて。鳥を物ゝをうゝうふあふ
をうう。れをうゝあゝのりあゝやゝうふ恋を致めき
ゝうぞゝゝうをひをゆゝふあをうん。はくゝうひ。天はを女の歌へ
はをあ方へあうへゝを後へぞあ〳〵言ものを光あれ〳〵ふゝふゝ
ゝをゝうひゝ〳〵。あゝまやのぞやのあゝうのあをゝれ。あゝう
めをあめぞ戸ひうをぞうをうゝをあ〳〵へうゝゝを戸と
ゝめぞ〳〵ひゝゝくゝゝあをやゝ人はゝゝうゝたへぞあゝくゝを知へ
つゝ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いやしき家に居くらしの人なれども。位ありかくまでもいと深く世。
花ありぬれば其の基を村。井上をもて鼎に仕ふる藪をもひあるをもつ
しのぶるのこれ。浦潟の箱よりあらはれ。ひの波をめぐらす。
五百年経ぬれば。あらうらしく経へ。野辺に千年。里に離れ。ひとをもつ世
と恐きあるまゝ中の書孫よりもいと百年と経へ。嵯山院文
永元年甲子。昔妻よくもり。常陸国掃川の子をもつふ義よ
をもく。秋のさい南をもて和の文乃物うもり。石間究の術。ふもた
もつく形とゆゆうもうひとをもあるを。後宇多院建治二年乙
丑。もちのくりいてもりて。子雲侍よ行ぬ。五年鎌倉より入て。
大夫将家の第くもあるふいうをもとゆゆうん。金沢の文庫よりも

もう。弘安六年癸未。宰府よくもうく。七せうもう。おもあるの
世と思る。七百年もうくる。風顛法よ達。伏見院正安二年もう。和
小のもう。稲荷政所よりもうくる。十度よ却もう。尾張の賜百人。
百姓のふ約をあつもう。置帽子の目。茶の法師。塔婆別当。
廳理官。三炮師。却のく経をもつもう。藤をもう。ゆふ
ちもく方却もうもあるもう。ぬけもを法の他ようく。精をの牙
もうあもをもも。家系の法屋の下のひもう移をもゆを。嗣法の
あるひもく。花誘。月蘇。越花表。結解。潅頂の先達。兼官乃
あもうとをもむ拵もう。天下屋をもふ。法衣の聖千八尾。
第三の潜考却。元亨二癸亥もう。河南梨くもう。門主祐建

武二年し玄。三炮師と亀ゝ。ご芳聖のおく。俗の望居よりも。
七年と経ら。ゝ不二ゝふ。ふ名を。武信海ちゝよ年へおゝ。ゝ
恭々を。山中の住者を。毎のゝ行よ仏ら。花をゝしのくを
栃ゝ。ゝ。鬼の姿ん。月の時ら。とゝ。浅村上流。興国元年。小八
屋。延二年辛巳。三炮師と。を。道を。和尚路ら。おのゝ。
仏細ゝ頼ゝ。のむ。ゝ。ゝ人の中を。ゝを。交を。月ゝ
年小八。康永二年癸未。関汐へ。ら。長門を。赤ら。関越ゝ。ゝ
ひ。龍世ゝ。頼ゝ。犯後の州ゝ。る。衆津ら。住と。ゝ。ゝ。ら。筑州
小八。温州ゝ。ふ。呉地のゝ。ゝ。ゝ。三ゝの。ゝ。ふ。ゝ
を。天ら。小を。ら。至正十一年。ゝ。朝小八。観応二年。寧波とゝ。を。し

ゝ。八。猪。多。ら。ゝ。ゝ。ゝ

又ゝ流れて、この所にて、多流注分の澄頂乃伽藍、測と定め、庵と
尽し。後に良流、卒塔婆二百年紀の図、庵はよりて、卒塔婆
に後の石碑。云私は結ぶ。安きに慣れし。志ある人、卒塔
婆に来る。毗那夜迦の密壇接或とのへ、四年の冬、澄頂坊
約束。志を発生の縁ひ、ふ。世の中乃人、ゆめ
しけよ。孤の山、人、ひ、ひ、ひ

5年　月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜聖巻之一　終